

<高校連盟特別ルール>

・規定演技 要求項目

- 1) 選手が種目の順序を決めることができる
- 2) 全て異なった種目で構成すること
- 3) 前方宙返り（360度以上）を1種目、後方宙返りを（360度以上）を1種目、計2種目を演技構成に組み入れること
- 4) 要求した4種目の難度点を規定演技得点に加算する。規定演技で難度点に加算された種目を自由演技で使用した場合、その種目は自由演技の難度点には加算されない
- 5) 難度のないフィートバウンスは2種目まで使用してもよい
- 6) 競技カードに記載したとおりの演技を行うものとし、記載したとおりに実施されない場合はその時点で中断とする
- 7) 競技カードへ上記3)は※を記載し4)は難度点を記入すること
- 8) 競技カードに規定演技要求項目記載不備があり演技を行った場合、規定演技得点を0点とする

<要約>これまでの特別ルールと変わった部分について

- ・難度に加算する種目が4つ
→0点の種目でも可
- ・背もしくは腹の種目を撤廃
→すべてスタンディング種目で構成可
- ・3)には※印を4)には難度を
→難度と※印を異なる種目で実施可

記載に不備のない規定演技の例①

印	No.	種目	難度	解説
※	1	1バックT	0.5	→予選自由で使用した場合は予選自由で難度0.0。3本目、6本目も同様
	2	ストラドル		
	3	フルシート	0.2	
	4	スイブル		
	5	立つ		→腰からの立つ、腹からとは別の技
	6	1/2腹落ち	0.2	
	7	ターンテーブル		
	8	立つ		→腹からの立つ、腰からとは別の技
	9	抱え跳び	0.0	→難度のない種目でも申請可
※	10	1フロントT		→※と難度申請はかねなくて良い
		難度合計	0.9	

記載に不備のない規定演技の例②

印	No.	種目	難度	解説
	1	1 2 — 1 ○	1.7	
	2	8 1 1 ○	1.2	
	3	8 - 1 ○		
※	4	4 - /		
※	5	4 1 /		
	6	4 - ○		
	7	4 1 ○		
	8	4 - <		
	9	8 - 5 <	1.7	
	1 0	8 1 5 <	1.8	
		難度合計	6.4	特になし

最終種目の※の前に中断した場合は、中断した前までの種目までで採点

記載に不備のある規定演技の例

印	No.	種目	難度	解説
	1	1 バック T	0.5	→※が抜けている
	2	ストラドル		
	3	フルシート	0.2	
	4	スイブル		
	5	1/2 捻り立ち		
	6	1/2 腹落ち		→難度の申請が4つない
	7	ターンテーブル		
	8	立つ		
	9	ストラドル	0.0	→重複する種目
※	1 0	フルピルエット		→前方の1回宙以上が不足
		難度合計		

上記解説のような記載不備が一つでもあった場合に規定得点が0点となる

ご不明な点がございましたら気軽にご連絡ください。

高ト連 競技委員長 人見 雅樹
masaki.hih@gmail.com